



# 嵯峨の福祉

第141号

嵯峨自治会連合会  
嵯峨社会福祉協議会

## 嵯峨学区敬老交流会



2024年10月19日（土）雨に加え、雷もなり足元も悪い中でしたが、昨年に引き続き、嵯峨学区の敬老交流会が嵯峨小学校の体育館で開催されました。総勢255人（お手伝いを含む）と昨年よりさらなる大勢のご参加をいただき、皆様が集える良い会になりました。自治連合会会長の挨拶を皮切りに右京区長、ご来賓の長寿を祝うご挨拶がありました。嵯峨学区では、現在100歳以上の方が21名、うち女性が20名と人生100年時代も夢ではなくなってきました。横とのつながり、気軽に話せる友達作りや近所の向こう三軒両隣のつながりなどを持つことによりお互い助け合う。そのきっかけづくりに、敬老交流会などを活かしていただくのもよいかもしれません。

プログラムは北嵯峨高校のクラシックギター部による「アラジン・ホールニューワールド」同じく北嵯峨高校の郷土研究部の六歳念仏「四つ太鼓・越後さらし」嵯峨小学校の児童による挨拶、「ふるさと・赤とんぼのビデオ合唱、〇×クイズ、ちゃつみの手遊び」、嵯峨中学校吹奏楽部の「マツケンサンバ2、アルデバラン、星影のエール、ジャンボリーミッキー、学園天国」など、素晴らしく、拍手喝さいでした。会場からも「アンコール、アンコール」と拍手と声が沸き起こりアンコール曲も披露していただきました。

社会福祉法人健光園、社会福祉法人嵐山寮などからも手作りの作品の展示もしていただきました。最後に嵯峨社会福祉協議会会長の挨拶があり、楽しかった会も終わりました。お土産として児童からのお手紙、栗入りお赤飯、焼き菓子が配られ、家路につかれました。次回もまた、お誘いあわせの上、お越しいただきますようお願いしております。



## 10月のたろう会 貼り絵

たろう会が10月12日（土）10時から嵯峨小学校北校舎1階コミュニティルームで開かれました。

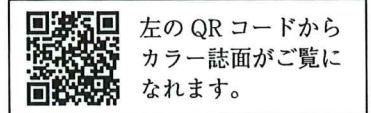
社会福祉協議会の広報誌「嵯峨の福祉」の題字の左にカット画像を描いている吉川祥子さんを講師に迎え、参加者は約35人でした。色づいている落ち葉を見ながら、画用紙に色紙をちぎり、貼り合わせて作品をつくりあげました。昼食は豚肉のピカタ、添え野菜、赤ずいきのぬた、おつゆ、漬物でした。午後は、水中花をつくっていただきました。これらの作品は、10月19日の敬老交流会の時、体育館で展示されました。



## グリーンベルト清掃

8月25日（日）午前7時から各種団体、ボランティア、スポーツクラブなどの児童、嵯峨小学校教職員が嵯峨小学校のグラウンドに集まり、学校の周り、グラウンドにわかれ、草抜きを1時間ほどおこないました。

みちがえるほどきれいになりました。写真のように草を入れたごみ袋がたくさんできました。



題字左のカット画像は、吉川祥子さんをお願いしております。

## 第58回嵯峨学区民体育祭



10月6日（日）、青空のもと、嵯峨学区民体育祭が嵯峨小学校校庭でおこなわれました。開会式のあと、競技がはじまりました。最初は「会長とジャンケン」会長に勝った人の人数が町内の得点になるという競技です。昼休みは嵯峨自治会連合会の紹介に続いて、介護予防推進センターの方による体操が行われました。午後には「年齢別リレー」まで、手に汗をにぎるような場面が多くみられました。優勝は八軒町、準優勝は龍門町でした。

## 令和6年度嵯峨学区総合自主防災訓練

9月8日（日）嵯峨小学校で、268名が参加して行われました。嵯峨学区で、震度5の地震が発生したと設定。各地域の集合場所から自主防災部単位で嵯峨小学校正門を通り、本館北側の煙道を体験後、体育館に集合しました。その後、3つのグループにわかれて、訓練を行いました。心肺蘇生、三角巾がわりにビニール袋を使ってのケガの応急措置、起震車による地震を体験しました。



## 嵯峨社会福祉協議会 「地域福祉ネットワークづくり」勉強会



9月27日に嵯峨小学校会議室で、公益社団法人京都市児童館学童連盟事務局主任児童厚生員の岡崎達也氏を講師として招き「発達障害の理解について」のテーマで研修をしました。

発達特性の観点から「注意・多動衝動の課題」「感覚特性」「協調運動の課題」「想像性の課題」「社会性の課題」「コミュニケーションの課題」について説明がありました。

発達障害支援の方向性について、いろいろな現場をまわられる中で、パワーポイントを使って分かりやすくお話していただきました。35人の参加でした。

## 第24回嵯峨中パレード 10月4日（金）



2001年（平成13年）より始まり、今年で24回目です。現在は「嵐山の治山」をテーマにした環境保全を大きな柱にして、「嵐山に山桜を」のスローガンのもと、植樹活動を目的とする募金活動が行われました。募金をされた方には、お礼として中学生が手製のうちわやしおりを渡していました。

そしてパレードの出発地点の嵐山中ノ島公園では、中学生によるダンスパフォーマンス、和太鼓演奏のあと、嵯峨中学校まで、保護者の方、地域の自治会連合会をはじめ、各種団体の方に見守られながら、嵯峨・嵐山・広沢学区を手作りの御輿を担いで練り歩きました。嵐山観光にいられている外国人の方もたくさん、見学されていました。

この広報誌は皆様のご好意、ご協力をえた社会福祉賛助会費および共同募金の財源を活用し発行しています。

# 嵯峨の由来

前回第137号よりスタートした国際日本文化研究センター名誉教授である早川聞多さんによる「嵯峨の由来」シリーズ、第4回目は嵯峨の川と橋です。なお、早川さんは嵯峨小学校卒業生です。

## 嵯峨の川と橋

### おほるがは とげつけう [大堰川と渡月橋]

大堰川は丹波から流れ来た保津川が嵐山下の千鳥ヶ淵を経て大堰川となり、萩原堤に沿って桂川となり南に流れ去ります。ところが暁鐘成の『雲錦隋筆』(1862年)によると、「往昔は桂川なくして大堰川東へ流れ、太秦廣隆寺の門前の邊より巽方へ流れ、西院村を経て吉祥寺村の邊をすぎ、鳥羽街道の西にて鴨河と合流せしと見えたり」とあります。確かに『明月記』(1235年)によると、藤原定家は小倉山荘にやつて来るに際して、「西京田中より廣隆寺西門前に出で、大井河に出づ」とあり、廣隆寺門前から大堰川を経て嵯峨に来てゐます。萩原堤はいつ頃出来たか定かではありませんが、天龍寺藏の「應永鈞命繪圖」(1426年)を見ると、下嵯峨から桂川が大きく南行してゐます。大堰川の「堰」は平安期初期に秦氏の一族であつた法輪寺の道品が築きました。『東寺百合文書』によると、大堰川から桂川にかけて何本もの堰と用水路が描かれてゐます。

[渡月橋] 渡月橋は奈良期以前には葛野郷・橋頭と呼ばれてをり、すでに「橋」が架かつてゐました。平安期初期に天皇勅願の法輪寺が造営されたことにより、この橋を「法輪寺橋」と呼ばれるやうになりました。鎌倉期中期頃、龜山離宮にをられた龜山上皇が、東山から昇る月が橋の眞上を渡つて嵐山の峯に隠れるのを御覧になり、「隈なき月の渡るに似たり」と仰つたことから、この橋を「渡月橋」と呼ばれるやうになりました。その頃の橋は今より100ほど上流にあり、木組の壯麗な造りで朱塗の欄干が架けられてゐました。

### せとがは うたづめばし [瀬戸川と歌詰橋]

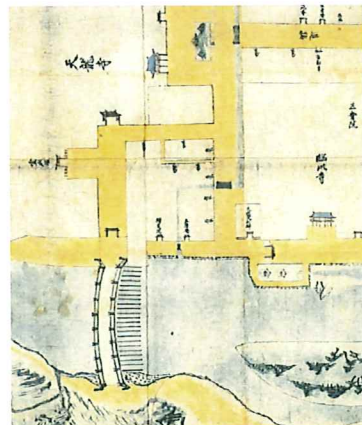
瀬戸川は六丁峠から嵯峨の中程を南に流れ、古くは芹川と呼ばれてゐました。『類聚名所和歌抄』には「臨川寺の東、下嵯峨へ流るる小川をいふ。土地の人はせと川と呼ぶ」とあり、せと川とは「川の瀬の幅が狭い戸」といふ意です。なほ「嵯峨の山々(下)」にあるやうに、上流は曼荼羅川と呼びます。

[歌詰橋] 傳説によると、西行法師が芹川の橋(今の龍門橋)に差しかかり、傍らの酒屋の女性と歌を詠み交はしたところ、西行が返歌に詰まつてしまつたといふ話。

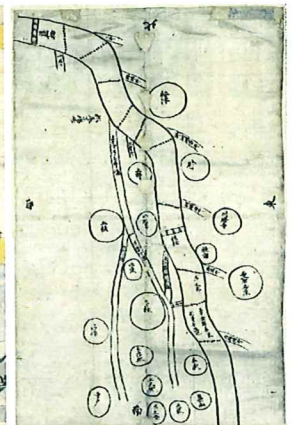
### ありすがは あんどばし [有栖川と安堵橋]

有栖川は觀空寺谷から嵯峨の東を流れ、安堵橋から南行し齋宮神社の横を通つて桂川に流れ込みます。有栖川は荒櫟川といふ意味ですが、「齋川」とも呼びます。齋宮とは伊勢神宮に奉仕する齋宮が潔齋する川邊の宮のことです。

[安堵橋] 安堵橋の東詰の石標には、「左 あたご」「右 三條通・六條・ふしみ」「左 北野天満宮・二條・下立賣」とあり、この西は「愛宕道」と呼ばれてゐました。愛宕道は安堵橋から釋迦堂門前に出、中院町から鳥居本を経て、試峠を越え清瀧橋に出る道です。なほ「安堵」とは中世以後は京都に戻つて来て「安心」といふ意味ですが、橋の北に阿刀神社があるやうに、本來は上代の有力な氏族であつた阿刀氏を指してゐたと思はれます。



渡月橋「應永鈞命繪圖」



桂川の堰「東寺百合文書」

